

■採択年度（タイプ・申請区分）※該当の口を■にしてください。／大学名

【ASEAN 対象】 H23 (A-Ⅱ) H24 (Ⅰ) H24 (Ⅱ) 【AIMS】 H25／ 千葉大学

■プログラム名

大学の世界展開力強化事業プログラム（ツイン型学生派遣プログラム（ツインクル））

—以下、タイに特化した内容を主に記載ください。—

■相手大学・機関（国名も記載ください）

チュラロンコン大学(バンコク)、マヒドン大学(バンコク・ナコンパトム)、カセサート大学(バンコク)、キングモンクット工科大学トンブリ校(バンコク)

■主な活動内容（概要）

【ASEAN 諸国学生受け入れ】 ①本学学生の科学教育教材作成の支援(特に ASEAN 諸国の教育事情、彼らの教育経験を踏まえて)、②日本における科学教育の現状把握(本学附属校での見学等)、③学生の専門分野にそった研究室でのゼミ参加・実験、といった3つの活動を主な内容として実施した。

【本学学生派遣】 本学学生による現地学校での科学教育実践と、連携大学における研究交流を実施する。タイは今年度からの派遣となるため、他国での成果を参考に進めていく。

【今後の展望】 さらに参加学生の研究分野を広げることでより多様な教育実践を行うことと、(派遣・受入れともに)長期学生の実習を今後の研究交流に積極的につなげることなどを想定している。

■プログラムの現状・課題、成功事例

(単位互換、危機管理、寮・奨学金、その他プログラムをつくる上での障害等について、できるだけ具体的に記載ください)

現状・課題

【学生派遣時の安全対策について】 現在のタイ（バンコク）のように派遣地の政情が不安定な際の派遣をどうするか、検討基準等について情報を共有させていただきたい。

【プログラム実施時期の調整】 ASEAN 諸国と日本とのアカデミックカレンダーの違いによる、派遣/受入れ期間調整について。他プログラムの経験等を共有できればと考えている。

【事業採択校同士のネットワーク形成】 年数回の連絡会に加え、各採択大学同士の実施状況を簡単に把握し合えるような仕組みを考えたい。ASEAN の連携大学同士は AUN など既にネットワークを形成し、単位相互認定や互換に関する情報共有や共同学位などで連携をしているので、日本国内でも本連絡会をもとに類似したような取り組みができないか。

成功事例

1. 連携大学の要望により、ASEAN 学生の受入れを計画当初より拡大して実施した。結果、学生たちから、大学院（博士課程）で本学への進学を希望したり、将来教員になる際に日本の科学教育の教材やカリキュラムを参考にしたいという意見が多く聞かれた。

2. 本学学生と同様の活動を日本で実現するために、チュラロンコン大学学生（理学・教育学研究科の学生4名）による、日本の学校での教育実践を今年度より実施した。結果、学生からは自らの研究内容を省察し、社会に還元する方法を考える契機になったという成果が上がった。